

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292300019		
法人名	有限会社 ファイブ・ワン		
事業所名	グループホーム えびす いなかだて		
所在地	〒038-1141 青森県南津軽郡田舎館村大字川部字中西田30-58		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年7月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との連携を図り、地元行事への参加を行っている。敷地内の畑で、花や野菜作りを楽しみ、土と緑に触れる機会を設け、五感で季節を感じている。ホール窓から見える岩木山より四季の移り変わりを感じ取ることが出来る。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の中の広々とした敷地に2階建てのモダンな建物となっており、調査時はとても暑い日であったが玄関から中に入ると適切な室温に管理されて気持ちよく過ごせる。広いホールに入ると利用者が思い通りに過ごせるようにテーブルやソファーが設置されている。ホールからは天気が良いと岩木山や遠方が望める。職員も一人ひとりのペースに合わせてケアされており、グループホームとしてサービスの目的を理解しながら取り組まれている。また、利用者の方が昔から行ってきた山菜や野菜の処理など楽しく行える機会を作るなど認知症ケアに取り組まれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関の見やすい場所に理念を掲示している。利用者への声かけや対応を通し、理念の実現に向けて取り組んでいる。	利用者の生活の質向上に向けた理念を会議の場で確認し合い、地域密着型サービスの役割を理念へ取り込むことを理解し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外まわりの掃除や畑作業の際に、近隣の方と挨拶をすることで馴染みとなる。町内会のリサイクルを利用することで地域の繋がりを持っている。	町内会に加入し、リサイクル回収への協力をしている。地域で行う防災訓練・ごみ拾い・収穫祭への出店を通して地域住民と交流している。その結果、グループホーム夏祭りへの住民参加や朝顔の提供があり、玄関前に植えられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村広報誌に広告を掲載し、内容説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催。村役場委員、地区民生委員、家族代表、管理者、職員が出席し、現状報告し意見などを聞き、サービス向上に努めている。	行政・民生委員・家族代表からの参加あり、当期における行事などの活動状況や利用者の現状報告をしている。参加者から意見を出せる雰囲気をつくりながら、サービス向上へつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌への掲載、運営推進会議への参加により、意見交換を行い、良好な関係を築いている。	田舎館広報誌に広告を載せて周知を図っている。地域ケア会議へ市町村担当者が参加し、困難ケース等の相談をして連携の図れる関係性が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時のオリエンテーションで、身体拘束をしないことは説明、理解している。また、身体拘束をしない介護を実践している。玄関より出て行く方には見守りをし、共に行動している。外部研修に参加したり、内部での勉強会を開催している。	身体拘束をテーマに取り入れた勉強会を定期的に行っている。実際に帰宅願望のある利用者、畑作業目的に外に出たい利用者に対して、職員が行動を共にして拘束することなく過ごされている。又、拘束しないケアにより、転倒等によるケガに対して事前に家族へ説明をし理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。もっと理解するため、外部研修に参加したり、内部での勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての理解が薄いため、日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を基に説明を行い、同意を得ている。今期、4月の消費税増税に伴い、家族へ利用料の改定について、文書にてお知らせし、随時質問に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の利用料金をご持参いただいた際、近況報告し、家族から意見や要望をうかがっている。定期的な来園が難しい家族には、電話等で近況報告を行っている。	面会時に意見や要望などを聞くようにしている。顔を合わせて言いにくいことでも本音を聞けるようアンケートを用いている。本人・家族の視点に立って考えることができるように、苦情への対応も含めて内部研修を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職務調書を提出するので、要望を訴えることができる。	年に2回程度の職務調書の提出のほか、面接も行っている。毎月行う職員会議の場でも各職員が意見を言いやすく、意見交換が図られており、代表者・管理者が意見を聞き入れる環境づくりを意識している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月3日本社にて、管理者、提供責任者とミーティングを実施し、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、内部研修を行い、職員の資質向上に努めた育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期であるが開催されるケア会議に出席し情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受ける際は、本人が困っていること、要望などに耳を傾け、安心して生活ができるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望に出来るだけ応えられるように対応、配慮し、話しやすい環境作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズに対し、何が必要かを見極め、柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、喜怒哀楽を共にし、共同生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設生活での変化や異常があった際は、家族へ連絡を取り、情報を共有し、協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人外出を取り入れ、本人の思い出の場所も検討する。村内ドライブでは利用者の部落を通過するようにしている。	個人ごとに、その方の地元に行ったり、季節ごとに畑(リンゴ畑など)へ作物を見に行ったりしている。又、友人がグループホームに遊びに来て一緒に過ごす時間を大切にしている。お墓参りなど職員が付き添う他、家族にも協力を求めるなどし関係継続を支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日光浴するにも、利用者同士、声掛けしあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所したり、入院者についても、その後も訪問や面会に行き、築いてきた関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族から意見や希望を聞き、把握するように努めている。意思疎通が困難な方については、家族と相談し、同意を得て、ケアを行っている。	3カ月に1回のモニタリング・カンファレンスにて基本調査票の見直し、担当者制で本人の意向を確認している。	生活歴(過去の暮らし方)については、より情報を収集してその人らしい生活を実現できるよう期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等については家族から情報の収集を行ったり、今までのライフスタイル、価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、生活のリズムを把握し、ひとりひとりが自分の出来る力に合わせた作業や活動を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見は面会時に聞き、サービス計画に取り入れている。モニタリング、カンファレンスを行い、担当職員の意見を取り入れている。	職員個々に1人から2人のケースを担当し、職員全体で意見交換をしながらモニタリング・カンファレンスに取り組んで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人の経過記録、日誌等の記録をし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを把握し、職員間で連携し合い、個人を尊重しながら柔軟なサービスを目標としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(ゴミ収集、ねぶた、田んぼアート)を見学することで参加している。2ヶ月に一度運営推進会議に出席していただいた民生委員の方に施設の状況、運営方針を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を希望の利用者は、継続受診し、協力医院の往診や受診も行い、指示、助言を受けている。	入居前からのかかりつけ医希望の場合は、入居後も継続的に受診できるように支援されており、病状(症状)の変化や悪化があればより適切な医療を受けられるよう調整・検討を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常勤で勤務、2週間に一度、訪問看護師も来園され、健康管理に努めている。その都度、状態報告を行い、密に連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、情報を提供している。また、病院とこまめに連絡を取り合い、早期退院に向けての関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在、終末ケアにおける体制は整っていない。体調が急変した際は、救急搬送となることを家族に説明している。	重度化した場合の対応については入居時に説明されており、受け入れ可能な施設の紹介など支援されている。重度化の基準は、嚥下状態などから判断し、生命の質が低下しないよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時の対応方法を理解している。通報訓練を定期的に行い、実践できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、夜間を想定した訓練も行っているが、誘導時間がかかり、訓練は常に必要と感じている。東日本大震災により、様々な課題が見え、災害時には地区の消防団の方に協力を依頼している。	日中及び、夜間想定訓練を年2回と、通報訓練を職員休日に関係なく行っている。地域の消防団にはグループホーム内の様子・車いす対応の利用者についても確認してもらい、協力依頼を継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室のドアは閉めておくように配慮している。排泄の際も必ずドアは閉めている。	利用者の尊厳・プライバシーの保護については職員同士で共有・理解・把握できるよう内部研修を行っている。暑さ等で居室のドアを開ける際は、ドアの開け幅を意識したり、ベッド柵にタオルをかける等見えすぎないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事、活動への参加、決め事は入所者と話し合い、自己決定を促す場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者のペースに合わせ、生活していただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な業者来園での散髪を行い、希望に沿った髪型に出来るよう支援している。化粧をする方は自らしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜の処理や材料の下ごしらえをはじめ、下膳や茶碗拭きも一緒に行う。禁食や苦手な物は提供しないようにしている。職員も一緒にテーブルで摂取する。	食べることへの楽しみを持ち続けるように口腔体操をしたり、「いただきます」の元気な声を大切にしている。一人ひとりの好みを把握し、摂取する量や進み方を見守りし、健康管理につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事を目指し提供している。水分は、好みや体質に合わせて、定期的に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自分で出来る方は声がけ、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パターンを把握することで失禁が減り、リハビリパンツから布パンツと尿取りパッドになった方もいる。個々の排泄間隔を知ること、排泄の成功に繋げている。	排泄チェックシートを利用し、個々の排泄パターンを記録して、声がけや誘導時間を配慮して支援している。トイレまでの移動距離についても利用者の能力に応じて必要最小限に部屋の調整など行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜をメニューに多く取り入れている。水分補給と適度な運動を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴剤を入れ、香りを楽しんでもらっている。また、時期によっては、りんご、バラ風呂も行っている。	入浴時間については曜日、午前午後に関係なく、利用者からの希望にはできる限り対応できるようにしており、最低週3回は入浴できるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調を見ながら運動を行い、好きな歌やラジオ、お茶を楽しむ。時間に囚われずに休息していただいたり、安眠を保てる温度、湿度の管理に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的等は声がけし、一部の利用者は理解できているが、全ての副作用や用法等を理解するのは難しいため、その都度手渡しし、服薬を確認している。症状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や趣味はすべて把握できていないが、役割や嗜好品については理解し、楽しみや余暇活動に生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期以外は、園庭に出る時間を作っている。個人の要望を聞き、家族の了解を得て、食事を兼ねたショッピングも行っていく。	今年の目標の一つとして、個人外出の実施を掲げ、先日はラーメンを食べたい方の要望を取り入れて実施している。又、行き帰りはショッピングを計画するなど利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物等は、自ら支払い出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしている利用者はいないが、遠方の家族と電話で話したりする機会を増やしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保ち、共用の空間は、不快な音など無いうように配慮している。ホールに写真や利用者と共に作成した壁画を掲示し、緑を飾り、落ち着いた空間作りをしている。	広くゆったりとした空間で、利用者が思い思いに過ごしている。テレビを見るときに腰掛けるソファは広く使えるよう配置しており、外の風景を楽しむために窓側に椅子を並べて過ごしやすい雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にてゆっくりテレビやラジオを聴いて過ごしたり、ホールではソファや食卓椅子に座り、会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持参された家具、仏壇、ラジオを居室に置き、使い慣れたものを使用し、落ち着いた過ごせるよう工夫している。	入居時には何でも持ってきて良いことを伝え、自分らしい部屋づくりを意識している。	本人とも相談しながら、その人らしい居室を作り、本人が居心地よく過ごせるように、さらに工夫を図っていくことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には目印となるプレートを設置。床には余計なものが無いような状態で安全に配慮している。個人によっては、わかりやすい居室にするために、目印をつけて対応している。		